



令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

学校名【会津若松市立城西小学校】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	4学年3クラス 91名
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	<p>○ 鈴木選手の講演を聞くことを通して、鈴木選手の生き方にふれ、児童が自分の生活を見つめ直したり、新たな目標を見つけたりすることができる。</p> <p>○ 障がい者スポーツやパラリンピックへの関心を高め、バリアフリーを多面的にとらえたり、児童が自分でできることを考えたりすることができる。</p>
5 取組内容	<p>○ 白杖・車椅子体験</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>市の社会福祉協議会の方などを招聘して実施した。</p> <p>（児童の感想）</p> <p>○ アイマスクをして歩くだけなのにすごくこわかった。特に階段。だから目が見えない人に道を教えてあげたいです。</p> <p>○ 車椅子は、段差を登るのが大変だった。自分がけがをしていたらすごくありがたいと思うし、車椅子を押す人だったら、しっかりアシストしたいです。</p>

○ ボッチャ体験



県障がい者スポーツ指導者の先生を招聘して実施した。

(児童の感想)

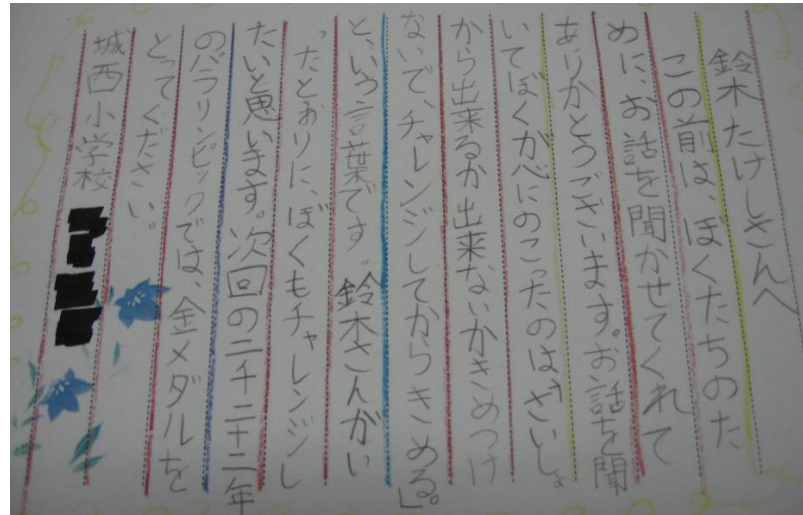
- ルールも分かりやすく簡単かと思ったけど、やってみたら難しく楽しかった。
- ボッチャは障がい者、そして小さい子からお年寄りまでできるスポーツで、すごいなと思いました。

○ 鈴木猛史選手講演会



貴重なすばらしいお話をお聞きしました。

○ 鈴木選手へのお礼の手紙



全員でお礼の手紙を書き、鈴木選手へ送った。

6 主な成果

- 介助は全て手伝ってあげればよいということではなく、相手をよく見て、相手のできることはご自身でやっていただき、できない部分に対して手を差し伸べるのが、本当に相手を思いやることになるということを事前の白杖・車椅子体験から学んでいた。今回の鈴木猛史選手の講演でこのことを再認識することができた。

	<p>○ 鈴木猛史選手の講演会では、鈴木選手ご自身の足のない姿や、いろいろな動きを見せてくださったので、ご講演いただいたお話の内容をより理解することができた。前向きに生活していくことの大切さ、失敗を恐れないこと、あきらめない心の大切さについてもその価値を改めて実感することができた。鈴木選手へのお礼の手紙の中にも、この点にふれているものが多かった。</p> <p>○ この講演の後、骨折してしまった友達と一緒に楽しめるようなルールを考えて遊ぶ児童の姿が見られた。まさに「優しさこそがバリアフリー」というご講演いただいた内容が児童のよい姿となって現れたと考える。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	○ 本校4学年では、総合的な学習の時間で行っている福祉の授業と関連させた形で本事業を行ったこと。このことにより、4学年の総合的な学習の時間のねらいも高いレベルで達成できた。
8主な課題等	○ 本事業をより実効あるものとするため、単発ではなく、何かと関連させながら実施するのが望ましいと考える。
9来年度以降の実施予定	○ 今年度と同様に、4学年の総合的な学習の時間で行っている福祉の授業との関連で、本事業を実施していきたい。児童自身も「つながり」を意識できるように展開していきたい。